

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月5日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678600125
法人名	社会福祉法人 潤生会
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋瀬久井西8番地3 (電話) 0997-73-1311
自己評価作成日	令和6年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・私達グループホームひまわりの理念をご紹介します。  
「温もり・安らぎ・明るさ」をモットーに喜びと生きがいに努め、家庭的な雰囲気の中で

1. 安心して、その人らしい生活をしていただく住まいづくり。
2. 地域との交流を進め、地域の一員としての暮らしのお手伝い。
3. 個人の能力を尊重しその能力を日常生活に生かしていく。

を基本理念とし、地域・家族・スタッフ一体となり支えています。

- ・グループホームひまわりは、道路を境に前に山、後ろに川が流れ、山からは四季を問わず小鳥のさえずりが聞こえてきます。川にはシラサギ、カワセミが餌を求めカラスの行水等、楽しい自然の光景が見えます。
- ・長年の目標としていたこいのぼりを利用者と作り、川になびくこいのぼりを眺め、利用者と共に喜びあう事が出来ました。
- ・昨年介護職員として、インドネシアから男性職員が入職しました。はじめは私達職員も不安をもって受け入れましたが、その不安も一日目で解消されました。言葉使い、表情、利用者との接し方が柔らかく腰が低く今ではひまわりの人気者です。

- ・理念はパンフレットに掲載、玄関とホールに掲示し、毎朝唱和して日々のケアに取り組んでいる。また、毎月発行の「職場の教育」という本の感想を発表して自己啓発にも取り組んでいる。
- ・自治会に加入していて「子供110番」を掲げていることで、子供たちが立ち寄ってくれている。毎週日曜日に美化作業を行っていて事業所の周辺の清掃や河原の藪払い等も行っている。地域の人や家族から野菜や果物の差し入れもあり日常的に地域との交流ができています。
- ・管理者・職員は、何でも話せる関係が出来ており、働きやすい職場で永年勤続者が多い。職員間のコミュニケーションも良く、利用者の為に色々なレクリエーションを取り入れて、毎日健康で楽しく過ごせる様に努力している。管理者は勤続年数も長く、職員から信頼もあり、勤務体制の改善等にも努力している。外国人就労者を受け入れ、人材育成にも力を入れている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	グループホームひまわりの一日は理念の唱和から始まります。管理者は職員と理念を共有し実践に繋がっています。	理念はパンフレットに掲載、ホール・玄関に掲示している。毎日の朝礼時に唱和し、職員会議でも話をしており、管理者・職員は理念を共有し日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入、110番を掲げています。暑い時は、子供達が水をくださいと声を掛けてくれる事もあり事業所自体が地域の一員として交流出来るよう努めています。	自治会に加入している。毎週、事業所周辺の道路清掃を行っている。地域からの野菜や果物の差し入れがあり、周辺の散歩時に地域の人との挨拶をする等、日常的に地域との交流ができています。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	管理者や職員は、グループホームのあり方や、入所に当たっての相談などの受け入れを積極的におこない地域に向けて生かして居ります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で議題として取り上げた事が、コロナやインフルエンザの感染症で会議が中止、職員会議で話し合い、その結果を運営委推進委員に文章で報告サービスの向上に活かしています。	2ヶ月毎に運営推進会議を実施している。1回は対面で開催したが、事業所でコロナ・インフルエンザ感染があった為、事業所内で会議を行い、書面で報告した。自治会長の参加があり、地域の情報等を共有している。出された意見や提案を話し合いサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>認定更新の機会等で町担当者へ利用者の暮らしぶり、ニーズを伝え協力関係を深めています。</p>	<p>認定更新や相談事等、役所担当者と連携を取りながら協力関係を築いている。生活保護者がいる為、福祉課からの訪問がある。地域包括支援センター主催の研修があり、オンラインで参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>利用者が安全に安心して過ごせるサービスを目指しています、椅子や車いすでの拘束など小さな事も職員同士で注意し、気を配っています。母体施設での合同勉強会に参加、知識を高める様取り組んでいます。</p>	<p>年4回の母体施設の合同勉強会に参加し、全職員で身体拘束廃止に取り組んでいる。言葉の拘束についても職員がお互いに声掛けを行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の施錠はしていない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>昨年12月「らしきサポート」から講師を招き「虐待とは何か」で母体施設にて勉強会がありました。参加できなかった方にも申し送りをして防止に努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>昨年利用者に成年後見制度を活用している方がおり、学ぶ機会を持つ事が出来ました。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設の取り組みや、看取り、長期入院、利用料金等、理解、納得を図って契約に結びつけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で面会できない中、利用者の元気な姿を写真に収めハガキで送った。毎月手紙を送付生活状態等を知らせ預り金の残金を知らせ、家族の意見も取り入れ反映させています。	利用者からは日々のゆっくりしている時に意見を聞いている。家族から利用者の生活状況を知りたいとの意見があり、コロナ禍で面会できない期間は利用者の様子を写真で送ったり、生活状況を手紙に添えてお知らせしていた。コロナが第5類になって面会できるようになった。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	合同の会議を全体会議と称し、代表者は今後の施設の運営に関する目標等を話、聞く事ができます。代表者は職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させています。	職員は合同会議の中で意見や提案をしている。ケアの方法、勤務体制等についての意見が出ており、職員が独自で考えた残存機能継続のための脳トレーニングメニューやリハビリ体操を行っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	4年ぶりに忘年会がもてた。代表者は「職員全員が一致団結してコロナ禍を乗り越えたからこそこの集まりが出来た」各自、向上心を持って良い職場づくりを目指してと挨拶しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>老施協の研修を母体職員と同等にオンラインで研修を受け知識を高めております。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍になっても感染症予防は続き、独自の予防を防ぐことで同業者との交流に正直余裕がなかった。家族と母体施設との連絡を取る事だけだったことを反省しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人、家族と面談し今までの生活状況、心身の状態、不安、要望を傾聴し支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事、望んでいる事を聞き、サービス提供に努め支援しています。援助方法も伝え、安心して頂けるよう信頼関係にも繋げています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向や希望等できる事は早めに対応、可能な限り状況に応じて対応するよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	折り紙で鶴の折り方を教えてもらおう、台所の片づけや、洗濯物を干したりたたんだり「自分たちに出来ることはいつでも言ってね」と声も掛けてもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は利用者に教えて貰ったり手伝って貰う事が多く、大事な一員である事を家族に伝え、本人と家族の絆を大切にしています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入所前から利用していた美容院を継続できる様、また知り合い、友人との関係が途切れないよう支援につとめております。</p>	<p>利用者全員が馴染みの美容室の訪問美容を利用している。知り合いや友人が訪ねてきたり、医療機関の帰りに知人や友人宅に立ち寄る事もある。電話や手紙・はがき等の取次ぎも行う等、馴染みの関係が途切れないように支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>従姉妹、気の合った同士を同じテーブルにして、不安を取り除き、利用者同士が安心して生活が出来る様に努めています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>故郷にお墓参りで帰った家族たちが遠慮なく立ち寄り、思い出話が出来る様に、関係を断ち切らない様に努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中で得た情報、気づいたこと等記録に残し、ミーティング等で共有しています。意思疎通が困難な方は、現状の問題点や家族の希望を聞き安心して過ごせるよう努めています。	日々の会話の中で思いや意向の把握に努めている。行動や表情によって「家に帰りたい」と分かる利用者には家族と電話で話をしてもらっている。意思疎通が困難な場合は家族に聞く等、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時にも聞き取りをし、これまでの生活状態を把握しサービス利用に努めてまいります。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、出来る事やっている事が続けて行ける様に。また、出来ることが増える事にも努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニターリング時には状況を確認し、より良く暮らす為の課題を出しています。 かかりつけ医院の薬剤師による【便秘と下剤の使い方】の勉強会を個別に開催し意見等も反映しています。	本人・家族・職員の意見を聞きながら現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に、入所時は1ヶ月毎に実施している。介護計画の見直しは6ヶ月で行っている。入院時は早期に退院できるよう相談し、退院時や状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルにて、食事、水分バイタルチェック、排泄等が一目でわかる【サービス提供の記録】を活用し、ケアの見直しにも活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の送迎は職員が主にしています。家族とともに立ち合い等を行い支援やサービスに努め取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	【こども110番】を掲げ地域の子供たちを見守る事に努めています。美化作業時で通りがかりの方達と挨拶を交わす等交流を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1～2回、本人や家族が希望している病院の訪問診察を受けております。家族から他の病院受診希望がある時は、可能な限り家族も同行してもらい適切な医療が受けられるよう支援しています。	本人・家族の希望する医療機関の訪問診察を月1～2回受けている。歯科も馴染みの歯科医の訪問がある。他科受診は家族と職員が付き添って診察を受けている。適切な医療が受けられるように連携を取り支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>適切な受診や看護を受ける事ができる様状態把握に努めています。コロナ禍利用者の体調に疑問を感じた時には、母体施設の看護師の協力も貰い支援しています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は情報提供書を提出【できるだけ早めの退院】を望む事を伝えていきます。入院時は病院との情報交換に努め退院時に備えています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化予想も想定される場合早めに医師から家族への説明をしてもらい「どうするか」を家族と職員が話し合い、同意を得る様にしております。 急変時の対応も主治医、家族と連携を取り支援に取り組んでいます。</p>	<p>マニュアルがある。入所時に重症化した場合の説明をして同意書をもっている。状態の変化に応じて主治医から本人・家族に説明をしてもらい、家族の意向を確認している。以前、訪問看護を利用して家族と共に看取りを行ったことがある。急変時も主治医・家族と連携を取りながら支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>小さな出来事にもヒヤリハットを上げ、事故につながらない様にしています。母体施設合同で勉強会を開き実践に繋げています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消火器の場所、避難経路の確認、消火器の使い方等訓練は定期的に行っています。</p> <p>側を流れる川の水位などを常に見て母体施設や行政に連絡する自治会長は常に声を掛けてくれます。</p> <p>前回の地震警報での職員の対応を反省し、利用者は誰が避難させるのかを話し合う機会を得る事が出来ました。</p>	<p>消防署の立ち合いのもと1回と自主訓練1回の年2回防災訓練を実施している。避難場所が段差があるので非常口にしてはどうかと消防署員からの提案があった。以前、台風の被害があった際は母体施設にしばらく避難したことがある。備蓄は米・水・缶詰・麺類等、母体施設と事業所で準備している。かぶり物として、座布団等の準備もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉のかけ方には、充分気を付け傷つける事が無いよう、一人ひとり適切な言葉かけに配慮しています。排泄時、入浴時等プライバシーを損ねないよう気を付けております。	毎月母体施設で勉強会を行っている。入室時はノックや声かけを行い、排泄時や入浴時の声かけには配慮している。名前は苗字にさん付けで呼んでいる。自己決定しやすい話しかけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にあった支援が行なえるよう耳を傾け声掛けをしています入浴、レクレーション参加は職員の判断ではなく利用者本人の判断で行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に出来る所を見つけ脳トレ洗濯物たたみ、お盆拭き等も手伝ってくれます。理念3に添って個々の能力を尊重しその能力を日常生活に活かしていくをモットーにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に適した服が着用できる様支援しています。顔そり、爪切りは定期的に行い、お化粧品をして楽しんでいきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は残食もなく召し上がってくれます。昼食は職員も一緒に食べています。元旦は三献（さんごん）をしました「施設でこんな事もして下さるとは」と感動する利用者もいました。	食事は専門業者を利用している。差し入れの野菜を使ってみそ汁を作っている。食事形態にも配慮し、行事食、誕生食は職員が作っている。年末の豚骨料理や元旦の三献の儀を利用者も喜んでいた。台拭き、お盆拭き等、利用者と一緒にいき、昼食も職員と一緒に食べて食事を楽しむ支援ができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は記録に残、一人ひとりの状態に応じて食べやすい形態に調理し、お茶の時には島の習慣黒糖を付け水分摂取に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎・誤嚥の予防に食後は必ず口腔ケアを行う様、施設を立ち上げた時からの習わしになって居り、職員も心得ております。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレは各室に設置されています。排泄チェック表を用いています。夜間はベッドをトイレ側に近づけ移動距離を小さくし自立に向けてトイレ誘導をしています。	トイレは各居室にあり排泄チェック表を使ってトイレ誘導を行っている。要介護5の利用者も排尿便意があるのでコールを利用して介助を行っている。夜間のポータブルトイレは使用しておらず、居室のベッドをトイレの近くに移動してトイレ誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者ほとんどが便秘症で薬で解決している状態です。薬剤師による勉強会も持ちました。個々に応じた便秘解消に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週3回、月・水・金です。湯船に入る人、シャワー浴で済ませる方、一人ひとりの希望に沿った入浴方法をとっています。入浴後は水分を摂るように努めています	入浴は週3回行っている。シャワー浴、浴槽浴など、個々の希望に沿って実施している。自分専用のシャンプーや石鹸を使う人もいる。入浴後は水分摂取と保湿クリーム塗布を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見て居室へ誘導したり、入眠の支援しています。室内の温度湿度を見て、安心して眠れるよう気配りしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に日付、名前を確認しています。飲ませた後、口から出したり落としたりがあるので確認、特に便秘薬の服用変化に気を付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干す、たたむ、テーブル拭きやお盆拭き等手伝ってもらい、やりたい気持ちを引き出す働き掛けをしています。新聞購読をしている利用者には新聞を渡し読んでもらっています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	母体施設での合同運動会に参加約2時間楽しんだ。 月見には月見団子やミカン等を食べながらみんなで月見を楽しんだ。正月に家族の要望で帰省した利用者もいます。家族の協力を貰い故郷巡り実施、家に帰れた事を喜び合いました。	年間行事計画を作成している。天気の良い日は、周辺の散歩に出かけている。昨年秋はお月見を行い、母体施設の運動会にも参加した。正月には外泊をしたり、家族の協力をもらってドライブや花見等の外出も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は家族がしています。小遣い程度を所持している方もおります。自分で使うという事はほとんどありません。診察料金等の支払いは預かり、毎月残金を報告しています。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話所持者は5名ほど居り家族との連絡を取り合っています。電源確認は職員がしております。常に家族との交流を支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に送ってもらった孫やひ孫の写真を壁に張ったり、届いた手紙やはがきは、目の届く位置に掲示し、かって自宅で生活していたころを施設でも感じながら生活してもらう様こころがけております。	ホールは明るく、折り紙で作成した四季の飾りが飾られている。誕生会の折には利用者の名前を書いたり、飾りつけをしている。温度や湿度管理を行い、換気は十分に行っている。テレビ・ソファ・テーブル・椅子等、好きな場所でゆっくりと寛げて過ごしやすい空間になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールでは大きなテーブルを囲み昔話等の会話も弾みます。なじみの顔をみながら、食事やレク、余暇活動を行い、数合わせ文字合わせに熱中しております。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使っていた寝具や食器などを部屋に置き、安心した生活ができる様にしております。本人の希望でもあり、部屋の入り口には名前を表記し個々の排泄等の行動がスムーズに行えるよう工夫しております</p>	<p>居室の入り口に名札がある。ベッドや洗面台・トイレ・箆筒・エアコンは事業所が準備している。寝具は持ち込みもある。利用者は自宅で使っていたテレビや椅子・テーブル・家族の写真等を持って来て、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>職員は一人ひとりに寄り添い、個々に散歩等に付き添い、歩行練習、手遊び等、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫しております。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない